

山 館

# 監督トークに感慨深く

## 安房地域 母親大会 来場者が平和に思い

平和について考える「第21回安房地域母親大会」(同実行委員会主催)が10、11日、館山市コミュニティセンター第一集会所であった。ドキュメンタリー映画の上映と監督トークのほか、パネル展示やワークショップ、疎開体験者の話などもあり、多くの人が訪れ、それぞれの思いを深めていた。

大会スローガンは「女性と子どもの目から安房での戦争を見つめよう」。両日とも午後には、金高謙二監督の太平洋戦争末期を舞台にしたドキュメンタリー映画「疎開した40万冊の図書」を上映、その後は金高監督のトークもあった。映画は、生きることが精いっぱいだった戦時下で、蔵書の疎開を決断した東京都立日比谷図書館の中田邦造館長や、危険な目に遭いながらも奥多摩などに本を運んだ高校生、疎開先で土蔵を提供した村人らを描いた作品。この疎開で、滝沢馬琴の「南総里見八犬伝」をはじめ40万冊の本が守られた。東日本大震災で被災した図書館の復興も描かれ、文化を守る大切さを訴える内容になっている。

初日の10日には、会場を埋め尽くす人数で初回は初めて聞いた。文化を

を残すために命を懸けて本を守った人がいたことを知りました」などの感想が聞かれた。

安房地域の戦時中の資料を並べたパネル展示では、今年から鴨川市内の資料も追加。来場者は、初めて4市町がそろった資料を見て、平和について思いを巡らせていた。



館山コミセンで監督金高を語る思い